

沖縄観光インフラカード の発行

～観光を楽しみ、集めてわかる～

内閣府沖縄総合事務局 次長 尾澤卓思

はじめに

沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置付け、現在第5次の観光振興基本計画を定め、観光振興に力を入れています。平成33年度に入域観光客数1000万人（うち国外客200万人）の達成に向け、受け入れ態勢の構築等のロードマップや観光危機管理基本計画を策定する予定です。

平成26年度の入域観光客数は、約717万人で過去最高を記録しております。

こうした動きを踏まえ、沖縄観光振興に貢献するインフラ整備を明らかにし、「沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備」として6つの分野のシナリオを作成し、HP(<http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/012480.html>)や雑誌、機関誌等で公表しました。その際に、従来の道路、港湾、空港等の事業毎の縦割りの展開を観光の観点から横串を刺した形で整理し、観光振興の目的・目標に対してインフラの総合力の重要性をわかりやすく示す工夫を行いました。

6つの分野のシナリオは、観光振興に貢献するインフラ整備の内容及び形態から戦略上以下に示す6つの分野に

まとめたものです。

① 観光資源の整備「インフラは観光資源」

② 観光地等の地域支援「沖縄らしい魅力のある地域づくり」

③ 交通網の整備「交通拠点とネットワークの構築」

④ 情報発信の拡充「交流拠点からの発信」

⑤ 環境保全・再生「保全・再生技術の蓄積と活用」

⑥ 防災・危機管理「迅速かつ適切な初動対応の確立」

今後、この提案を広く理解してもらい、観光振興に寄与するとともに、インフラ施設への興味を持つてもらえるようにすることが必要と考え、一般向けの広報を実施することとしました。採用した方法は、エンターテイメントの要素を組み入れ、注目度や話題性も考慮し、安価で作成しやすい性格を有するカードを用いました。観光とインフラの関係について、カードの収集を楽しみながら理解できる「沖縄観光インフラカード」を発行しました。

本稿では、インフラの名刺と言える「沖縄観光インフラカード」の紹介を行います。

なぜカードなのか

観光とインフラの関係について、提案を公表したHPや雑誌、機関誌等では、一般の方や観光客にとって内容が難しい上、ボリュームが多く、理解しにくいものでした。また、提案したようにインフラから情報発信を行い、観光振興に貢献する必要があります。

このため、広報を工夫する必要がありますが、これまで講演会やパネル展を実施してきました。

しかし、これらは限定的なため、さらに広く伝える方法を考える必要があります。そこで、広報の基本方針として、写真を利用するなどわかりやすい表現、簡潔な内容、楽しみの付加、安価、作成の容易性、幅広い世代を対象とすることなどを重視し、特に注目度や話題性において期待でき、インフラ施設のダムで実績のあるカードを用いることとしました。

カードは、各国の遊びや仕事で利用され、その歴史は古く、また、様々な形状やデザインで多くの人に親しまれ、プロ野球や漫画の仮面ライダー、ポケットモンスターなど国民的な流行となったものもあります。

カードは、SNSの普及のもと、Q

沖縄観光インフラカードの概要

Rコードによるインターネット上の展開も可能になり、動画の配信など幅広い活用が期待されます。さらに、カードホルダーを組み合わせることで、収集の楽しさも増えます。こうしたカードの特徴を活かすこととしました。

さらに、広報のみならず、カードは教材として用いられることもあり、教育にも利用できます。

前述のとおり沖縄観光を広く支えているのは、「インフラ整備」です。具体的には、道路や空港、港湾だけでなく、首里城や海洋博記念公園、人工ビーチ、離島架橋、ダムツーリズムなど観光資源を含む幅広い地域づくりが、観光に貢献しています。

これを踏まえて提案した「沖縄における観光客数1000万人時代のインフラ整備」の内容を観光客などの一般の方に広く容易に理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成し、配付することとしました。

このカードの基本的な概念は、前述のカードの特徴を活かすことであり、カードは、施設の概要、目的、効果な

どを写真と簡潔な表記で行うというインフラの名刺です。収集する楽しみがあり、記念品にもなるため、観光客の満足度の向上につながり、また、カード発行施設の連携等により観光PR効果や誘客効果も見込めます。作成価格はパンフレットより安く、台紙は規格品であり、印刷も容易で制約がありません。

QRコードによる動画の配信などSNSの活用を図るとともに、カードホルダーを作成してより有効なものとすることも可能です。

カードについての解説及び発行状況等は、沖縄総合事務局のHPに掲載しています。

「デザイン及びシンボルマーク」

カードは、統一したデザインと仕様で作成しました。カードの表側が写真裏側を説明としています。（図1）特にデザイン面では、3つの特徴を有しています。

（1）斬新なデザインのシンボルマーク（図2）

観光とインフラの関係を象徴的に表現できるデザインとなっています。

このシンボルマークの意図は、「見

という漢字が造形的モチーフになっています。「沖縄県の県章を象った【目】にあたる部分は、新たな「観光」の可能性を展望するものであると同時に、それを支える【足】の部分が、新たな観光スポットとして注目される「イン

フラ」及び観光を支える「インフラ」を象徴しています。また、こうした「観光地」を巡り、沖縄の魅力をたくさん「発見」しながら旅を満喫するツーリスト達の姿を表現したものであります。スタンプ風に仕立てたこのマーク



図1 カードのデザインと仕様

【配付】

配付方法は、原則として各施設利用者で希望される方へ配付窓口において一人一枚の手渡しとする。ただし、式典やイベント等において配付する場合はこれに依らないこととしている。配付場所は、(図3)のマークを掲示している窓口で行う。



図3 配布場所目印マーク

【発行対象】

発行対象は、基本として「沖縄における観光客数1000万人時代のインフラ整備」で提案したシナリオに基づくインフラ施設とし、適宜発行して増やしていく。カードは登録制とし、登録順にナンバーを付す。



図2 シンボルマーク

沖縄観光インフラカード

図4 平成26年度発行のカード

沖縄北部ダムツーリズム

福地ダム



安波ダム



漢那ダム



道の駅

許田



おおぎみ



ゆいゆい国頭



かでな



喜名番所



豊崎



いとまん



ぎのざ



国営沖縄記念公園
沖縄美ら海水族館



開通記念
首里城



豊見城東道路



図5 安波ダム

「シゲランファアの滝」

安波ダム
「シゲランファアの滝」



「安波ダム」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、ダム湖面からしか見られない幻とされる「シゲランファアの滝」が動画で見ることができます。

図6 沖縄美ら海水族館

沖縄美ら海水族館



「沖縄美ら海水族館」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、黒潮水槽の中でゆっくりと泳ぐジンベエザメと一緒にいるような動画と沖縄の方言をお楽しみ頂けます。

図7 首里城

首里城



「首里城」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、首里城公園「新春の宴」の厳かな儀式の様子を動画で見ることができます。

を今回の「沖縄観光インフラカード」に施すことで、それらを集める喜びや楽しさを演出するとともに、沖縄を訪れた人々の素敵な思い出の証となるようデザインしています。

(2)セピア調のアンティーク感を持つ写真

そのままでの写真では、見たまま頭の中の印象どおりであり、手元の写真でも残ります。今回は、旅の思い出として、時間の観念を入れ、思い出風にセピア調にしています。旅から帰ってから見るというコンセプトにしました。また、セピア調により、格調高く仕上がっています。

(3)背景の色

施設のシリーズがわかるようにシリーズ毎に色を決めました。

デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生によるチームに依頼したものです。

【平成26年度発行のカード】(図4)

・沖縄北部ダムツーリズム(平成27年2月28日)

福地ダム、安波ダム、漢那ダム

・道の駅(平成27年3月15日)

許田、おおぎみ、ゆいゆい国頭、かでな、喜名番所、豊崎、いとまん、

ぎのぞ

・国営沖縄記念公園(平成27年3月26日)

沖縄美ら海水族館、首里城

・開通記念(平成27年3月31日)

豊見城東道路

沖縄北部ダムツーリズムの安波ダム及び国営沖縄記念公園の沖縄美ら海水族館、首里城のカードでは、QRコードにより動画を見ることができず。(図5、6、7)

沖縄観光カード(仮称)の提案

カードの発行が観光振興に貢献することを考えると、インフラ施設のみならず観光施設や観光関連産業などにおいても同様の「沖縄観光カード(仮称)」の発行により観光振興に同じような効果が見込まれます。

基本的な規格やデザインを合わせた姉妹カードの発行により、観光客の満足度の向上や観光PR効果、誘客効果などの面において相乗効果も見込まれ、スケールメリットの発揮により、観光振興に大いに貢献することが考えられます。

現在、関係機関と発行に向けて調整を開始しています。

観光とインフラの融合

6つの分野のシナリオからわかるように観光とインフラは一体として考えた方が理解しやすく、今後の展開を考えるのに合理的な部分がかなりあります。このため、「沖縄における観光客数1000万人時代のインフラ整備」では、観光とインフラは別々でインフラが観光を支援するという観点から、観光とインフラは融合しているという新たな観点へと見方を変えてインフラ整備を行うことを提案しました。

これをもっともわかりやすく実感できるのが、沖縄観光カード(仮称)と沖縄観光インフラカードの姉妹カードの発行です。旅の中で両方のカードを集めていくことにより、如何に密接、一体化しているかを知ってもらえ、旅の思い出の中に観光とインフラがきれいに収まります。

おわりに

今後、観光とインフラの関係の理解のみならず、観光振興に大いに貢献できるように沖縄観光インフラカード及び沖縄観光カード(仮称)の発行対象を拡大するように努めていきます。また、工事中のインフラ施設において

も、土木の魅力を広く知ってもらうため、工事現場のカードを発行することを検討中です。現場見学やパネル展など広く土木の魅力をPRする機会に活用していきます。

カードは、動画配信やゲーム性を持たせた運用など様々な組み合わせを行うことができ、アイデア次第でかなりの広がりを持った活用が考えられる。大学生など若い世代への参加を広め、ワークショップや実証実験など柔軟なアプローチでユニークなアイデアの発掘も行います。民間との連携を強化し、官民連携によるさらに面白い取り組みを提案、実現していきたいと考えています。

最後に、忙しい中、カードの企画の段階から相談にに応じていただき、デザイン、シンボルマークの作成まで応じていただいた東京学芸大学環境教育研究センター吉富友泰准教授、東京学芸大学教育学部正木賢一准教授及び学生の皆様には感謝を申し上げます。

参考文献

・尾澤卓思「沖縄観光インフラカードの発行、しまつ」(No.72) pp48-49 (2015.4)